



RIテーマ ROTARY : MAKING A DIFERENCE

ロータリー：変化をもたらす

クラブテーマ 『 それでこそロータリー！ 』

2017-2018

第 27 回例会

会 報 No. 1025 豊橋東ロータリークラブ

事務局：豊橋市花田町石塚 42 豊橋商工会議所内 TEL 0532-56-8566 FAX 0532-39-7520

会長：中嶋秀樹 副会長：伴 和信 幹事：柳瀬秀昭 会報・雑誌委員長：金子和久

平成 30 年 1 月 24 日(水) 19:00~21:00

例会会場：ホテルアークリッシュ豊橋4F ザ・テラスルーム 担当：理事会

ロータリーソング「それでこそロータリー」/「四つのテスト」唱和：松下 泰三 さん

ゲスト 米山奨学生 アルタンフヤグ、ヒシグオチル 君

| 出席報告 | 会員総数 | 計算会員 | 出席免除者数 | 欠席 | 出席率 | 1月10日修正出席率 | ビジター |
|------|------|------|--------|-----|--------|------------|------|
| | 43名 | 40名 | 3名 | 19名 | 52.50% | 87.80% | 24名 |

会長挨拶 中嶋 秀樹 会長

発足当時のお話を聞かせていただくと、色々な思いがありながらも移籍されたメンバーの方々は、良いクラブを作るんだという思いで東クラブを盛り上げて戴きました。お陰様で自由闊達なすばらしいクラブになり、そのようなクラブだからこそ、数々の奉仕活動を行なうことができました。韓国の学生招聘事業、数々の周年事業、東北復興支援事業、そのどの事業をとっても関わった人達の心に何か変化をもたらし、世の中にとって良い事を行なおうというロータリーの精神に則ったすばらしい事業だったと思います。

さらにこの奉仕の歴史に新しいページを重ねていけたらすばらしいと思います。

乾杯 満田 稔 さん

創立時以来の色々な事を和気藹々の気持ちになって各テーブル話に花が咲いたらと思います。今日の例会の素晴らしい展開を期待いたしまして乾杯致します。



本日のプログラム 創立記念例会

～我がクラブ奉仕の歴史・思い出話～

韓国中央大学校について 小林 佳雄 さん 豊橋東 RC のお陰で韓国との国際交流が出来、私だけでなく、会社全体、韓国から来た学生さんと触れ合う人たちがすごく大きな満足感が得られています。



10 周年「夜回り先生講演会」居平 文孝 さん 2005 年 8 月 28 日(日) 講師に水谷修さんをお迎えしアイプラザ豊橋で行われました。約 800 人の来場者で会場が一杯になりました。



15 周年「子供達が学ぶ自然と人の課外授業」伊藤 篤哉 さん 2010 年 8 月 22 日、「石巻山」、「葦毛湿原」、「汐川干潟」の 3 か所を訪れ、自然を次世代に継承することを子ども達に考えてもらうことをテーマに開催しました。



東北支援事業 1 年目 伴 和信 さん 東北支援にて付き添いの先生が仰った「大人の本気」という言葉が印象に残っていて、一大事業を通して RC

が大人の本気度を見せた、大人の本気を見せられるのはこういう時ではないというのが一番の私の印象でした。

東北支援事業 2 年目 鈴木 雅晶 さん 震災後 3 年目の夏の 2014 年に東北を訪れた高校生は、復興が進んでいる光景に拍子抜けした印象もありましたが、実際に仮設住宅で被災者の方と交流をすると心のケアは全く進んでいないことを実感できたと思います。

東北支援事業 3 年目 安田 直樹 さん 20 周年事業に絡めて事業を進めました。2 月に打合せを兼ねて東北へ下見に行き、その時に人と人の繋がりで数々のご縁を頂き、様々なことが決まりました。

東北支援事業 4 年目 松下 泰三 さん 感受性が強い高校生に色々な事を勉強、経験するお手伝いをできた非常に有意義な事業だったと思います。

20 周年「熊谷育美 東北よりの風コンサート」平野 正博 さん 記念事業は当初、動員をはじめ様々な事に不安がありましたが、事業を終えてみると心配が稀有に終わりました。

ネパール復興支援について 小林 佳雄 さん ネパールの子どもたちが心の底から感謝し喜んでくれていることに心を打たれ、会員皆でやり切り、現地で刺激を受け、燃えました。

まとめ 柴田 憲一 さん これまで行った事業を熱く語って頂きました。10 周年を転機にクラブがかなり変わりました。これからもメンバーのみでなく家族の方々ともに豊橋東 RC を盛り上げて頂きたいと思ひます。

3 分間スピーチ 小石 洋和 さん

患者さんの保護者に言う事は、子どもは親より 1 枚薄着、1 枚多く着せていいのは 1 ヶ月まででそれ以降はいくらかわいくても着せすぎないという事です。



写真/原稿：鎌田 哲也 さん